

## 東京オリンピック・パラリンピックに関するアンケート

千葉県経済同友会

2017年3月

### 〇はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピックが3年半後に迫っている。開催地の一翼を担い、空の玄関口である成田空港を擁する千葉県には、国内外から多くのアスリートや観光客が訪れるものと見られ、大会の成功と地域の更なる発展に向けて着実な準備が進められていくことが期待される。

これを踏まえ、千葉県経済同友会では、会員経営者が東京オリンピック・パラリンピック開催をどのように捉えているか調査するためアンケートを実施した。

#### 調査の概要

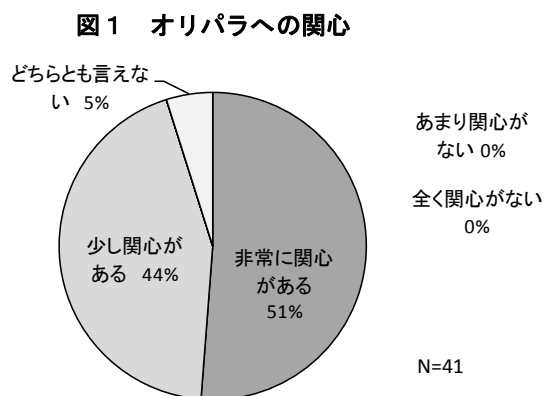
- |                                |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| <input type="checkbox"/> 調査名称  | 東京オリンピック・パラリンピックに関するアンケート |
| <input type="checkbox"/> 調査対象  | 千葉県経済同友会会員                |
| <input type="checkbox"/> 調査方法  | 調査票を郵送                    |
| <input type="checkbox"/> 調査時期  | 2016年12月                  |
| <input type="checkbox"/> 有効回答数 | 41件/147件（回答率28%）          |

1. 東京オリンピック・パラリンピック（以下、オリパラ）の開催について

(1) オリパラへの関心

現時点におけるオリパラへの関心度合いについて、「非常に関心がある」が51%、「少し関心がある」が44%となり、全体の9割を超える高い関心が示された（図1）。

なお、「あまり関心がない」及び「全く関心がない」との回答はゼロだった。

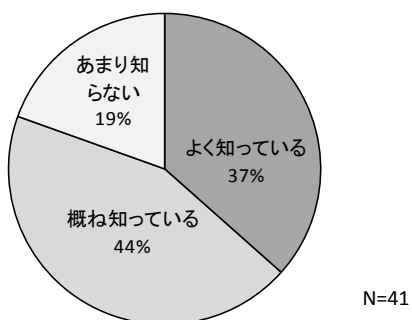


(2) 競技種目の認知度

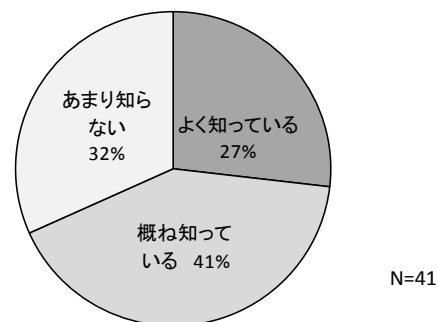
県内で開催される競技は、オリンピックではフェンシング、テコンドー、レスリング及びサーフィン、パラリンピックでは車いすフェンシング、ゴールボール、シッティングバレーボール及びテコンドーの各4種目に決まった。これらの認知度について、オリンピック種目は「よく知っている」が37%、「概ね知っている」が44%となり（図2）、パラリンピック種目は「よく知っている」が27%、「概ね知っている」が41%となった（図3）。

いずれも高い割合で認知されていたが、パラリンピック種目を「あまり知らない」とする回答がオリンピック種目より13ポイント高く、パラリンピックをより身近なものとするための取組みが課題となろう。

**図2 オリンピック種目の認知度**



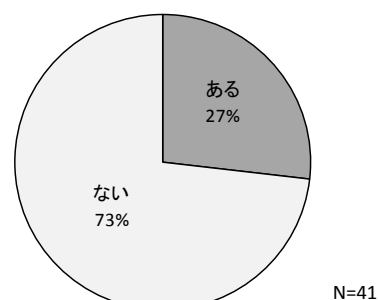
**図3 パラリンピック種目の認知度**



(3) 障がい者スポーツの観戦経験

上記（2）に関連して、これまでパラリンピック競技に代表される障がい者スポーツを会場で観戦したことがあるか尋ねたところ、「ある」との回答は27%にとどまり、「ない」が73%を占めた（図4）。

**図4 障がい者スポーツを直接観戦した経験**

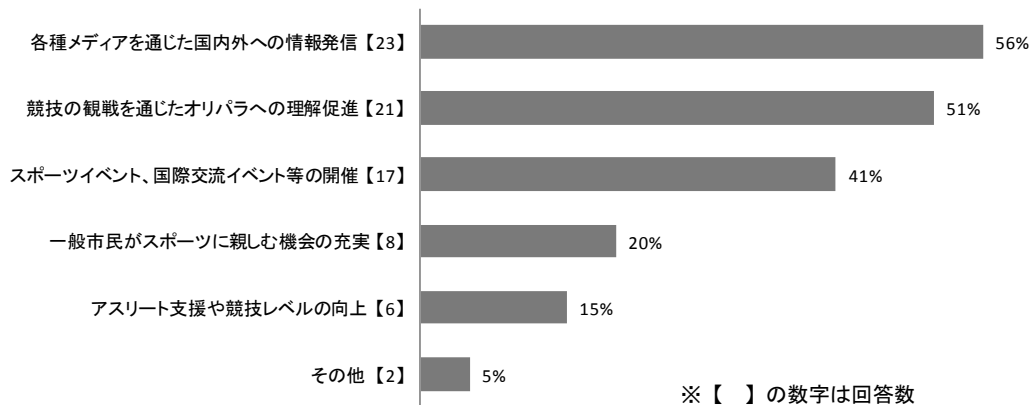


(4) 環境整備

オリパラの気運を高めるために特に重要だと思うことについて2つまで回答を求めたところ、「各種メディアを通じた国内外への情報発信(56%)」と「競技の観戦を通じたオリパラへの理解促進(51%)」が5割を超えた(図5)。

特に、パラリンピックの成功が大会全体の成否を左右するとの見方もあるなかで、各種メディアでの露出拡大や前項(3)のとおり現状1/4に止まっている実際に競技を観戦する機会を得ることが、大会の盛り上がりにつながるとの意識がうかがえた。

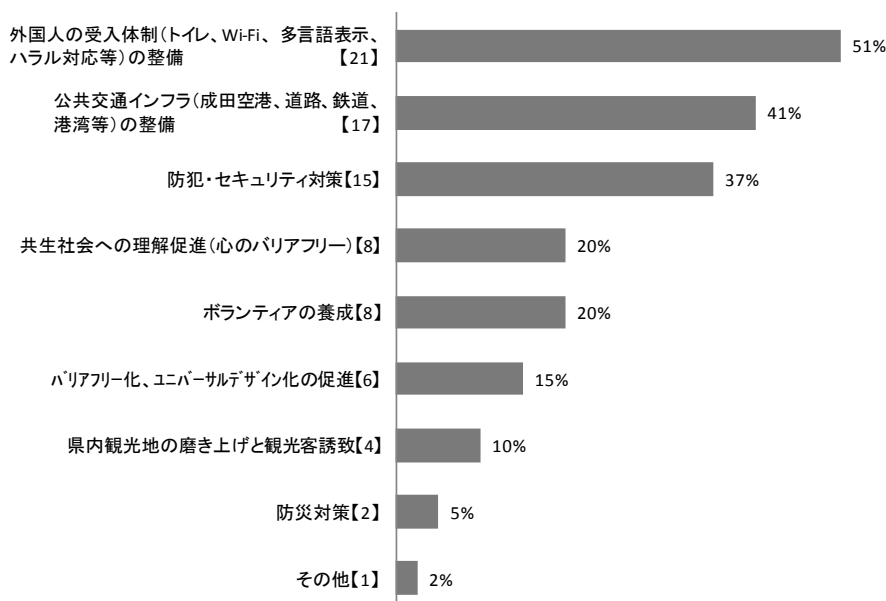
図5 オリパラの気運を高めるために、特に重要なこと(2つまで回答)



また、大会の成功に向けた環境整備として特に重要だと思うことについて2つまで回答を求めたところ、「外国人の受入体制(トイレ、Wi-Fi、多言語表示、ハラル対応等)」が51%と最も多く、「公共交通インフラ(成田空港、道路、鉄道、港湾等)の整備」が41%、「防犯・セキュリティ対策」が37%と続いた(図6)。

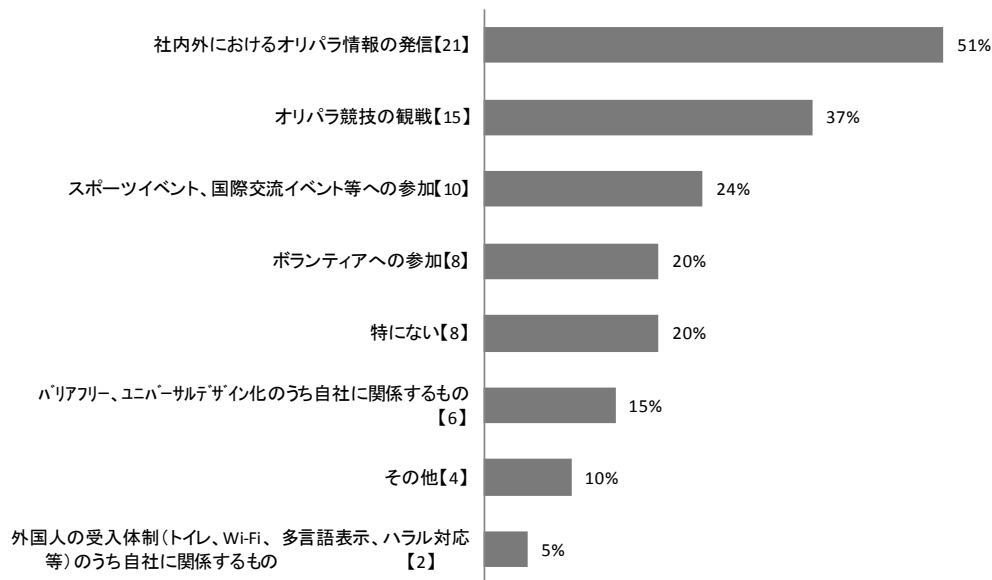
世界中から訪れるアスリートや観光客が快適に過ごせる設備やインフラ整備の優先順位が高いとの結果となった。

図6 成功に向けた環境整備として、特に重要なこと(2つまで回答)



今後、自社で実施したい、または自社の従業員に奨励したい取組みについては、「社内外におけるオリパラ情報の発信」が51%と最も多く、「オリパラ競技の観戦」が37%、「スポーツイベント、国際交流イベント等への参加」が24%と続いた（図7）。

図7 自社で実施したい、または従業員に奨励したい取組み

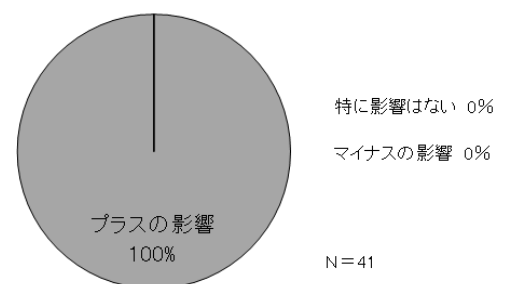


## 2. 経済への影響について

### (1) 千葉県経済への影響

オリパラが千葉県経済に及ぼす影響について、「プラスの影響」が100%となり、極めて好意的に受け止められている。なお、「マイナスの影響」及び「特に影響はない」との回答はゼロであった。（図8）。

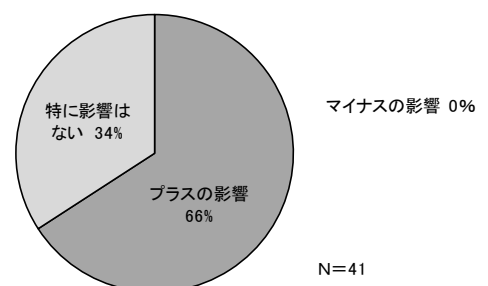
図8 千葉県経済への影響



### (2) 自社への影響

オリパラが自社に及ぼす影響について、「プラスの影響」が66%、「特に影響はない」が34%となり、「マイナスの影響」との回答はゼロであった。（図9）。

図9 自社への影響



「自社にプラスの影響がある」と回答した企業（27社）に、期待するプラス効果を尋ねたところ（複数回答可）、「地域経済の活性化による波及効果」が63%と最も多く、「自社製品・サービスの売上増加」が59%、「日本（含む千葉、東京）のイメージアップによる波及効果」が44%と続いた（図10）。

売上増加という直接的な効果に期待する向きがあるほか、地域経済の活性化や日本のイメージアップが自社にプラスとなる波及効果に期待する回答が多く見られた。

さらに、これらのプラス効果を得るために自社で検討したい項目について、自由記述で回答を得た（図11）。

図10 期待するプラスの効果

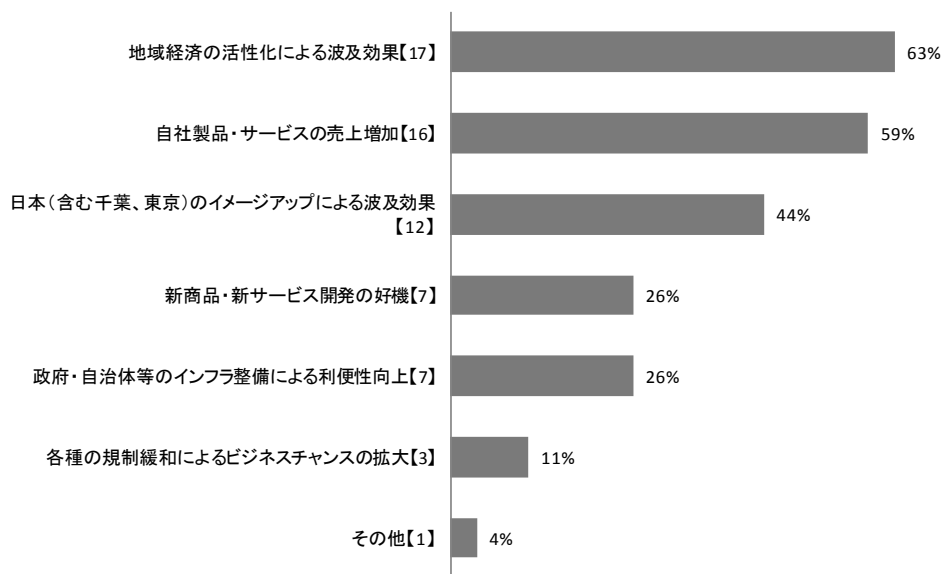


図11 自社で検討したい項目

分野	検討内容
情報発信	紙面、インターネットでの関連情報の発信、県内関係アスリート支援への啓発、関連イベントの開催。
	オリパラ開催に関する情報収集・発信。経済波及効果の試算および効果の実現に向けた提言のとりまとめ。
	オリパラの盛り上げ、機運向上の取り組み。
	IOT・AIと放送の融合の方法、実施競技に対する興味関心を高めること。
ハード・インフラ整備	空港内施設・サービスの更なるユニバーサルデザイン化。
	エレベーター、エスカレーター、トイレ等の改修。
	外国人の受け入れ体制の整備。
	多言語対応、客室等改装（グレードアップ）。
	酒類メーカー、蔵元企業と連携して、外国語でのメニュー表記運動を計画。
自社商品・サービスの拡充	土木・建築工事部の技術者の増員。
	ユニバーサルデザイン車両の導入。
	千葉県産清酒、県産果実のリキュールを含めた日本産酒類の海外輸出。
	記念イベント、セールスの開催。
	販路開拓。
	諸外国とのビジネス交流。

## 3. その他、全体を通しての自由意見

自由意見欄
観光立県「ちば」をアピールする意味で公共施設の整備、充実に推進すべき。
多くの人が参加できるようインフラ整備をお願いしたい。
JR 海浜幕張駅から競技会場となる幕張メッセまでのスムーズな来場者導線の確保が必要と考える。
千葉開催は地域にとって大きなチャンスであり、より多くの人の理解、参加促進を図ることが重要であると考えます。
パラリンピック等での障がい者プレイヤーの活躍を間近に見聞することで「共生社会」作りがより浸透、定着することを期待したい。
オリパラの会場となる幕張新都心から選手やお客様が都内へ帰ってしまうのではなく、千葉市内の中心市街地や県内東部、南房総に足を伸ばしてもらうための施策を計画すべきです。 〈例〉期間中は、①千葉市内へは直通の循環バスを走らせる（ワンコイン）、②県内の各観光地への日帰りバスツアーを用意する。（多言語のツアー行程表、各所説明所用意）
千葉を再び訪れてもらえる記憶、思い出を持ち帰って頂き、観光スポット以外の地も訪れてもらえるようにしたい。
推進組織の一体化、明確化が大切。
「オリパラ貴族」の為の開催からの世界的な脱却が必要。

## 4. 最後に

当同友会会員はオリパラに高い関心を寄せ、地域経済にもプラスになると極めて好意的に捉えている。世界のアスリートが大舞台で存分に力を発揮し、当地を訪れる観光客に素晴らしい体験をしていただくためにも、ハード・ソフトの両面から十分な事前準備が欠かせない。本調査ではオリパラの気運を高めるとともに、外国人の受入体制（トイレ、Wi-Fi、多言語表示、ハラル対応等）や公共交通インフラ等の環境整備を求める声が多かったが、相応の投資と時間を要することから計画的な進展が期待される。

また、これを契機に、自社の体制整備や商品・サービスの拡充を目指す企業の動きも活発化していくものと見られ、地域活性化への追い風となろう。この絶好の機会を生かせるかどうかは、もちろん大会そのものの成功にかかっている。当同友会は情報発信をはじめ様々な面から大会の盛り上げに貢献したい。

以 上